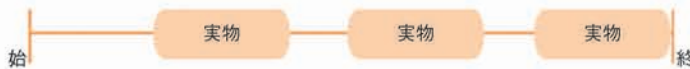


児童生徒発表型



鹿児島県鹿児島市立山下小学校
吉元 宣博

実践テーマ

児童の考えや表現の交流（探り合う活動）を活性化させる。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入～展開前段〉 前時に用いた（6種類の）パターンブロックと本時の学習課題として扱う三角形とを電子黒板上に提示し、課題把握につながるようにする。また、解決への見通しをもつことができるように、大きな三角形はブロックをどのようにならべていったらできるのかを一斉の場で確認する。（課題に対する理解を深める）
- 〈展開後段〉 課題解決への見通しに即して、自力で課題解決に取り組む。また、個々の考えを電子黒板に提示する。その際、使用したブロックの色だけを発表するようにし、○色が□個分ということについては、クイズ形式の学習活動の中でお互いに探り合うようにする。（図形に対する見方を広げる）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ブロックで、いろいろな形の構成をする。その後、課題として扱う三角形を電子黒板上に提示する（実物）。 学習問題「大きな三角形は、ブロックをどのようにならべたらできるのか調べてみよう」の提示。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パターンブロック、ワークシート（3種類の三角形シート）
展開	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な場合については、全体で考え、児童の考え（ブロックの並べ方）を実物投影機で複数例示する。そのことで、どの児童も解決への見通しをもつことができるようにする（実物）。 大きな三角形は、「ブロックをどのように並べたらできるか」について考え、発表し合う。その際、電子黒板のプラインド機能を生かし、友だちが考えたブロックの並び方で、隠れている部分を探り合う活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パターンブロック
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 大きな三角形とブロックとを並べて提示することで「同じ大きさのブロックを並べていくと、もとの形を大きくした形ができあがること」「形のでき方にはきまりがあること」に、児童が気付くようにする（実物）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パターンブロック



ブロックによる図形の構成についての確認



ブロックによる図形の構成についての例示



図形の見方「全体と部分との関係」についての整理

児童の反応・効果

- ・学習課題や使用する教具を電子黒板に映し出すことで、本時の課題把握につながった。
- ・電子黒板に映し出された考えの一部から、隠れている友だちの考えを探ろうとする意欲が高まった。

活用のポイント

- ・「大きな三角形の構成につながるブロックの並べ方」と「図形の構成に使用したブロックの色や数」とを児童が比較したり、関係付けたりしながら考えるような提示の仕方が有効である。そのためには、実物投影機の使用に加えて、電子黒板のプラインド機能を活用することが効果的である。